

巻頭言

日本ウェスレー・メソジスト学会の十年

藤本 満

I. はじまり

1998年9月21日、日本キリスト教団・銀座教会で「Reading in Wesley」と題して、ウェスレーに関心を持ち、ウェスレーに学んでいる諸氏19名に声をかけ、会合が開かれた。そのときの世話人は、現在の学会書記を務めている林牧人氏と小生であった。小さなきっかけを作ろうと、以下のような案内を出した。

日頃、数少ないウェスレー研究者の間で、情報交換や学びの分かち合い・啓蒙のために顔を合わせるだけでも一度集まれないだろうかとの声がありました。なにぶん皆様多忙でいらっしやいまして、本格的なものからはじめず、書籍や論文の紹介、ご自身の研究のご関心、小論文など、ともかく顔合わせをしたいと願いますので、お越してください。

そこに集まったのは、実に多彩な顔ぶれであった。ウェスレー神学を学ぶ者、英国史・労働運動の専門家、日本メソジスト教会の歴史に関心を寄せる者、女性学を追求する者。多彩な顔ぶれを見たのは、専門畑の相違によるだけではない。大学教師・牧師・神学生という括がりや、また特筆すべきは日本基督教団に属する研究者、救世軍に属する研究者、「福音派」に属する研究者など、教会背景を異にする者たちが一堂に会したことである。「福音派」の中には、中田重治を基点とする「きよめ」派の諸教会のほか、ナザレンやフリーメソジストなどの海外の諸メソジスト教団の流れも含まれている。これらの顔ぶれを見ただけで、ウェスレーやメソジストの影響の大きさを改めて考えることになった。

もちろん、個人的なつながりを軸に会合を開いたので、この分野の研究者す

べてに呼びかけりことはできなかつた。活動を継続するため、「学会」の旗揚げが提案され、集まった22人が発起人となり、39名の会員をもって、1999年に銀座教会で設立総会を開いた。そのときの、発起人の一覧は以下のようである。

発起人一覧

- ・岩本助成（会長） 日本フリーメソヂスト教団・大阪基督教学院、西田辺教会
- ・野村 誠（副会長） 日本基督教団（更新伝道会）・共愛学園女子短大
- ・石田聖実（会計） 日本基督教団（更新伝道会）・尾陽教会
- ・藤本 満（書記） インマヌエル綜合伝道団・高津教会、聖宣神学院
- ・清水光雄（会誌編集） 日本基督教団（更新伝道会）・静岡英和女子短大

- ・荒又敏徳 日本基督教団（更新伝道会）・気賀教会
- ・鶴飼 勇（顧問） 日本基督教団（更新伝道会）・銀座教会名誉牧師
- ・岸田 紀 高千穂商科大学
- ・黒木安信 ウェスレアン・ホーリネス教会連合・浅草橋教会、ウェスレアン・ホーリネス神学院
- ・小林和夫（顧問） 日本ホーリネス教団・東京聖書学院
- ・小宮山剛 日本基督教団（更新伝道会）・輪島教会
- ・坂本 誠 日本ナザレン教団・小岩教会、ナザレン神学校
- ・島 隆三 日本基督教団（ホーリネスの群）・西川口教会
- ・立石正崇 救世軍・救世軍士官学校（在学中）
- ・長山信夫 日本基督教団（更新伝道会）・銀座教会
- ・原田彰久 日本基督教団（ホーリネスの群）・北九州復興教会
- ・林 牧人 日本基督教団（更新伝道会）・銀座教会
- ・深町正信（顧問） 日本基督教団（更新伝道会）・青山学院
- ・本間義信 ウェスレアン・ホーリネス教会連合・連合ホーリネス中央教会、同神学院
- ・山内一郎（顧問） 日本基督教団（更新伝道会）・関西学院
- ・山崎一郎 日本基督教団・聖書之友教会
- ・山田喬夫 日本基督教団（更新伝道会）・武生教会

そのとき、『アレティア』に本学会設立を紹介すべく、小生は以下のような文章を掲載した。



●これまでの研究

日本におけるウェスレー・メソジスト研究の成果は、これまでも個人的なレベルで世に出されてきた。研究が、「学会」という集結を見たのは、1960年代であった。59年に渡辺善太を会長とする「ウェスレー著作刊行会」が活動を開始し、青山学院神学部の野呂芳男を中心に、主要な文献を翻訳した全七巻の翻訳事業が始まった。60年に「日本ウェスレー学会」が設立され、「ウェスレーとメソジズム双書」というタイトルで論集が発刊された。現在この会の活動は、著作集の刊行において継続されているが、研究活動は行われていない。

日本基督教団の中に旧メソジスト教会のヘリテージを受け継ぐ教会を集めた「更新伝道会」（会長・鶴飼勇）がある。唯一ここにおいてウェスレー研究の研鑽がなされてきた。

ウェスレーの著作の出版という点では、インマヌエル総合伝道団が、山口徳夫による「ウェスレー日記」の再版をし、最近では五三の主要な説教に注をつけて新訳を出版した。

このたびの新設学会が、かつてのようなウェスレー・メソジスト研究のうねりを作り出せるかは、今後の課題ではある。だが、少なくとも、これまで一度として行動を共にすることがなかった、幅広く点在する研究者たちの連携の場となることは確かである。

●新しい展望

ウェスレー研究は、ルター・カルヴァン研究と同じく、教理を題材とした専門的な研究は、1930～60年にかけて一つの区切りをつけている。同じ時期に、ウェスレーとルター、カルヴァンを比較したり、ウェスレーを、東方教父、カトリック、ドイツ敬虔派、ピューリタン、英国国教会、神秘主義などから眺める研究も、一つの区切りをつけている。

しかし、いったん落ち着いたかに見えたウェスレー研究が、1980年代後半から新たな展開を見せた。米国メソジストの主要な神学校・大学は「新ウェスレー全集」を企画し、英国からフランク・ベーカーを招聘するが、彼の緻密な歴史編纂は、新しい息吹を研究畑に吹き込んだ。米国の教会史家・神学者アルバート・アウトラーは、ウェスレーを「メソジスト」の繭から引き出し、教会史全体におけるウェスレー神学の卓越性を語るようになる。また、様々な哲学的流れに揺らされ、時代の必要に答えるために新しい神学を指向していた米国メソジスト教会が、自らのルーツを確かめるようにウェスレーに向かうようになる。こうして、80年代後半から、米国の研究畑に意欲的論文・書籍が多数出版されて今に至っている。

新設された日本における学会には、海外の新しいうねりと連動することができればという願いもある。

●学会の活動

設立総会と共に、第一回の研究会が開かれた。当初、この会は研究者同士の情報交換を目的としていたことを受けて、「ウェスレー研究の動向と展望」（ナザレン・坂本誠）、「メソジスト研究の動向と展望」（前橋国際学園・野村誠）と題された発題をもとに研鑽をつみ、また米国合同メソジスト教会教職の江原淳（もと福岡女学院）による講演を聞いた。

基本的に講演会は年に一回、九月を予定している。今年は、六月に青山学院と共同で、現代メソジスト神学の一翼を担う、スタンレー・ハーワース（米国デューク大学神学部教授）を講師に講演会を開く予定である。

学会誌は、ウェスレー研究とメソジスト研究を隔年で交互に取り扱う。第一号は、「神学者ウェスレー」と題して、数点の論文を準備中である。ウェスレーを教会人・伝道者・組織的リーダーとしか見ていない傾向は、メソジスト諸派の外にも内にもある。原因は様々であろう。メソジストの流れにいる人々がウェスレーを学ぶことをしなかったことも、日本のキリスト教会の神学がドイツを中心にしてきたことも、関係がないわけではない。だが、先述のようにウェスレー研究は米国を中心に新しいステージを迎えている。特に注目されるのは、ウェスレーの統合的な神学営為である。幅広い教会史の流れがウェスレー

の中に流れ込み、知識と体験、神学と実践、実践と霊性、教会と個人、個人と共同体、敬虔主義と社会活動、西方神学と東方神学、職制と信徒運動、高教会主義と福音主義、神秘主義と人格活動、等々、教会歴史の中で反対極の中にあつた諸要素が、ウェスレーのうちに緊張を保ったまま統合されていることに目が注がれている。ウェスレーのうちにある卓越した神学思考が、現代日本の教会に何を提供できるか、またメソジスト諸派をいかに豊かにすることができるか、学会としての今後の掘り下げが課題である。

翌年、学会誌はメソジスト研究を題材とするが、労働運動・女性運動・民主主義・人権運動におけるメソジストの貢献、そして20世紀日本が受け継いだメソジスト・ヘリテージをまとめる作業が期待されるところである。



学会誌のバックナンバーは、各号の巻末に出ているので、ここでは紹介するのを控える。代わりに、毎年一回、総会共に行われる研究会がどのようなものであったのか、記録のためにもここに記すことによって、おのずと本学会がたどってきた道のりを記していると信じる。

II. 研究会

第1回（1999年9月20日 銀座教会にて）

1. ウェスレー研究の動向と展望

発題・坂本 誠氏 応答・清水光雄氏

2. メソジスト研究の動向と展望

発題・野村誠氏 応答・藤本満氏

3. 特別講演 江原淳氏

「体験的メソジズム——米国合同メソジスト教会の経験を通して」

第2回（2000年9月10日 銀座教会にて）

発題 馬淵彰氏 「メソジストと英国労働運動」

第3回（2001年9月17日 銀座教会にて）

小研究発表

齋藤元子氏 「雑誌『Methodist History』に見るメソジスト監督派教会
女性海外伝道協会と女性宣教師に関する研究」

清水光雄氏 「ウェスレーと他宗教」

内海健寿氏 「明治初期青森県弘前メソジストの社会活動の興隆と試練」

気賀健生氏 「East Meets West」

第4回（2002年9月9日 銀座教会にて）

小研究発表

中井幸夫氏 「米国美普教会日本年会の50年」

小宮山剛氏 「北陸メソジストと伝道」

藤本 満氏 「ウェスレーによるたましいのケア」

岩本助成氏 「NEW CREATION」

第5回（2003年9月8日 銀座教会にて）

小研究発表

内海健寿氏 「イギリス・メソジストにおける坑夫生活改善と奴隷解放
運動」

教会史におけるウェスレー

清水光雄氏 「最近のウェスレー研究動向」

藤本 満氏 「義認論をめぐって」

坂本 誠氏 「ウェスレーと英国国教会」

馬淵 彰氏 「ウェスレーとピューリタン」

第6回 (2004年9月13日 銀座教会にて)

小研究発表

重富勝己氏 「ウェスレーと聖書」

内海健寿氏 「メソジストと奴隷解放運動」

ウェスレーと社会

東方敬信氏 「ウェスレー／メソジストと社会倫理」

馬淵 彰氏 「労働運動における社会抵抗権——メソジストの一例」

第7回 (2005年9月11日 銀座教会にて)

小研究発表

野村 誠氏 「ウェスレーにおける『自由の概念』について」

気賀健生氏 「北米メソジスト教会の来日に宣教師の資料について」

加藤恵司氏 「自然法思想とジョン・ウェスレー」

アルダスゲイト再考

藤本 満氏

清水光雄氏

第8回 (2006年9月11日 銀座教会にて)

小研究発表

中村謙一氏 「ウェスレーによる確証の教理」

メソジスの祭壇と恵みの座

猪野正道氏 「チャールズ・フィニー、米国ホーリネス運動に見られる
祭壇神学」

林 牧人氏 「メソジズムにおける Alter Rail (Communion Rail) をめぐって —— 「恵みの座」 保持の意義とメソジスト・ヘリテージ」

野村 誠氏 「英国聖公会の聖礼典からウェスレーを解釈する
D.G.Dix. *The Shape of the liturgy* に基づいて」

立石真崇氏 「救世軍における『恵みの座』」

第9回（2007年9月10～11日 関西学院大学にて）

チャールズ・ウェスレー生誕三百年記念

水野隆一氏・関西学院聖歌隊 「チャールズの賛美歌」

チャールズ・ウェスレー生誕三百年シンポジウム

岩本助成氏 「チャールズの人物像・家族像」

北村宗次氏 「礼拝と賛美——チャールズにみる」

深町正信氏 「メソジスト運動におけるチャールズの役割」

山内一郎氏 「チャールズの賛美と神学」

小研究発表

馬淵 彰氏 「詩人チャールズ」

趙 永哲氏 「初期小グループ運動におけるメソジストの霊性」

山本美紀氏 「現代に生きるメソジストと音楽／世界宣教の視点から」

第10回（2008年 青山学院大学にて）

小研究発表

斎藤元子氏 「明治27年メソジスト出版舎発行『スザンナ・ウェスレー女の
伝』について」

中井幸夫氏 「福音協会史——成全の教理の盛衰」

ウェスレーと教育

大森秀子氏 「ウェスレーの教育的遺産——青年のための教育」

鈴木健一氏 「スザンナ・ウェスレーの『教育論』の成立」

第11回（2009年 銀座教会にて）

小研究発表

- 鈴木健一氏 「スザンナ・ウェスレーの教育論における『子どもの自由』」
齋藤元子氏 『女性宣教師の日本探訪記—明治期における米国メソジスト教会の海外伝道—』（新教出版社）
松谷基和氏 「日本メソジスト教会の朝鮮伝道」

ウェスレーと聖餐

- 坂本 誠氏 「ウェスレーの聖餐論 宣教のわざとしての聖餐」
林 牧人氏 「メソジスト教会における聖餐理解——Ritual の変遷をめぐって」

Ⅲ. その他

本学会の目的の一つに、海外におけるウェスレー研究との連携や協力が掲げられているが、これに関してもある程度の成果を収めることが出来た。2002年に青山学院大学がスタンレー・ハーワーワス氏を迎えたときには、本学会が協賛した。2001年の気賀氏の講演は、氏が世界メソジスト歴史学会を代表してチェコ国立文化学院主催の学会で講演された内容を先取りしたものであり、また2002年の岩本氏の講演は、氏が第15回 Oxford Institute of Methodist Theological Studies に参加されたときの報告を含んでいる。また学会誌では、数回、海外からの論文を翻訳することもできた。

学会が創設されて、この10年で学会員によるウェスレー研究書籍もいくつか出版された。いずれ、論文と共に会員業績としてまとめることが求められている。それらをも本学会の知的資産と申し述べることができたら幸いである。

本学会は個人会員が基本であるが、メソジストの流れにある諸団体の賛助によっても支えられている。学会誌の最後に団体賛助会員の一覧が掲載されているが、今後も、これらの教会や神学校、大学を通して、ウェスレーとメソジストの信仰的・知的遺産をさらに豊かに発展させることに寄与できたらと願っている。

IV. 感謝

10年を振り返ると、本学会が多くの会員諸氏の情熱によって支えられてきたことは、言うまでもないことであるが、1999年～2005年まで会長の任を担われた岩本助成氏、そしてその後、学会をとりまとめてくださる田添禧雄には、会員みなが感謝するところであろう。

加えて、設立のはじめから、学会の会場として多くの犠牲を払って、全面的に総会・研究会の会場を提供して下さった銀座教会の長山信夫氏に御礼を申し上げなければならない。

(インマヌエル高津教会牧師)